

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

(学校で生徒の製作物の展覧会が開かれることになった。) 製作物を出した生徒は気が気でない、みなそわそわして展覧室を出たり入ったりしている。自分もこの展覧会に出品するつもりで画

紙一枚に大きく馬の頭を書いた。馬の顔を斜に見たところで、みんな少年の手にはあるまる画題であるのを、自分はこの一挙によってぜひ志村に打ち勝とうという意気込みだから一生懸命、学校から宅に帰ると一室にこもって書く、手本を本にして生意氣にも実物の写生を試み、幸い自分の宅から一丁ばかりはなれた桑園のなかに借馬屋があるので、幾たびとなくそこの厩に通った。輪廓といい、陰影といい、運筆といい、自分はたしかにこれまで自分の書いたものはもちろん、志村が書いたもののうちでこれに比べべき出来はないと思信して、これならばかならず志村に勝つ、いかに不公平な教員や生徒でも、今度こそは自分の実力に圧倒さるだろうと、大勝利を予期して出品した。

出品の製作はみんな自宅で書くのだから、何人も誰が何を書くのか知らない、またがいに秘密にしていた。ことに志村と自分はたがいの画題をもつとも秘密にして知らさないようにしていった。であるから自分は馬を書きながらも志村は何を書いているかという問い合わせ常にいだいていたのである。

さて展覧会の当日、おそらく全校数百の生徒中もつとも胸をとどろかして、展覧室に入った者は自分であろう。图画室はすでに生徒および生徒の父兄姉妹で充満になっている。そして二枚の大画(今日のいわゆる大作)が並べてかかげてある前はもつとも見物人がたかっている。二枚の大画はいわずとも志村の作と自分の作。

一見自分はまず荒胆をぬかれてしまった。志村の画題はコロンブスの肖像⁽²⁾ならんとは! しかもチョークで書いてある。元来学校では鉛筆画ばかりでチョーク画は教えない。自分もチョークで画くなど思いもつかんことであるから、画の善悪はともかく、まずこの一事で自分はおどろいてしまった。そのうえならず、馬の頭と鬚面をおおう堂々たるコロンブスの肖像とは、一見まるで比べものにならんのである。かつ鉛筆の色はどんなにたくみに書いてもとうていチョークの色にはおよばない。画題といい色彩といい、自分のは要するに少年が書いた画、志村のは本物である。技術の巧拙は問うところでない、かかげてもって衆人の展覧に供すべき製作としては、いかに我慢強い自分も自分の方が多いとはいえない。さなきだに志村崇拜^(すうはい)の連中は、これを見て歓呼している。「馬もいいがコロンブスはどうだ!」などいう声があつちでもこつちでもする。

自分は学校の門を走り出た。そして家には帰らず、すぐ田圃へ出た。止めようと思うても涙が止まらない。口惜しいやら情けないやら、前後夢中で川の岸まで走って、川原の草のうちにぶつたおれてしまつた。

* 一丁ばかり ≈ 約九百メートル。

* 借馬屋=馬を貸す店。

* 比ぶべき出来はない≈並ぶほど出来の良いものはない。

* 荒肝をぬかれて=とてもおどろいて。

* コロンブス=イタリアの航海者。

* 鬚鬚面をおおう=顔中にひげを生やしている。

* 衆人の展覧に供すべき=多くの人々に見せるべき。

* さなきだに=ただでさえ。

* 歓呼している=喜んで大声を上げている。

1 知・技

1 語彙 ①「画紙一枚に大きく馬の絵を書いた。」とあるが、この画題が「自分」には難しいものだとわかる言葉を六字で書き抜きなさい。

2 思・判・表 第一段落から読み取れる「自分」の人物像を次から一つ選びなさい。

- エウイア**
好きなことに夢中になり、純粹に楽しめる人物。
他者のことを気にかける、思いやりのある人物。
負けず嫌いで、勝つための努力を惜しまない人物。
自分に自信が持てず、すぐ思い悩んでしまう人物。

ヒント 「志村に打ち勝とうと…一生懸命」、「幾たびとなくそこの厩に通つた」などから読み取ろう。

3 心情 ②「胸をとどろかして」とあるが、このときの「自分」の心情を説明した次の文の空欄に入る言葉を、それぞれ指定の字数で書き抜きなさい。

- * 自分の画の出来に 1(二字)を持ち、この画ならば 2(九字)と確信しつつも、志村の作品が気になる気持ち。



4 表現 この文章の表現の特徴として適当なものを次から一つ選びなさい。

ヒント ②より前の部分から「自分」の気持ちがわかる言葉を探そう。

ア イ ウ オ 作者の視点から、事実を淡々と描いている。
「自分」の視点から、心情を克明に描いている。
漢語を多く使い、歯切れのよいリズムを生んでいる。
比喩を用いて、「自分」の心情をわかりやすくしている。
情景描写を丁寧に描き、場面を想像しやすくしている。



記述 ③「自分は学校の門を走り出た。」とあるが、このときの「自分」の気持ちを、「志村」という言葉を使って、三十字以内で書きなさい。

同じ段落に、「自分」の気持ちを表す言葉があるよ。

条件
・「志村」という言葉を使う。

・指定字数の八割(二十四字)以上書く。

* 比ぶべき出来はない≈並ぶほど出来の良いものはない。

* 荒肝をぬかれて=とてもおどろいて。

* コロンブス=イタリアの航海者。

* 鬚鬚面をおおう=顔中にひげを生やしている。

* さなきだに=ただでさえ。

* 歓呼している=喜んで大声を上げている。

20分

名前

組番

知・技

思・判・表得点

明治出版

10	/10点
10	/90点
10	/100点